

北陸大学図書館報

Bulletin NO.39

⇒ をクリックすると本文がご覧になれます。

⇒ スノーボールはどこへ消えた？
— 『動物農場』の今日的意義—

松本 和彦
(副学長・図書館長・未来創造学部教授)

利用学生の声

⇒ 図書館を利用して

北 侑未
(薬学部薬学科 6年次生)

⇒ 今を生き抜くための本の力

田中 真澄
(未来創造学部国際マネジメント学科 1年次生)

⇒ 平成27年度図書館委員紹介

⇒ 寄贈図書

⇒ 本館（太陽が丘キャンパス図書館）レイアウト変更のお知らせ

⇒ 目次

北陸大学図書館報



スノーボールはどこへ消えた？

— 『動物農場』の今日的意義 —

副学長・図書館長・未来創造学部教授 松本 和彦



スノーボール (Snowball) と聞いて、何を想起するだろうか。私がここで言っているのは、イギリスの作家ジョージ・オーウェル (1903 - 1950) の『動物農場』に登場する若い雄ぶたのことである。彼はこの物語の途中で消え去ってしまう。一体どこへ行って何をしているのだろうか。私は長い間ずっとそのことが気にかかって仕方がなかった。

『動物農場』の初版がロンドンで出版されたのは1945年8月17日である。最終章である第10章末尾にあえて明記しているように、実際に執筆したのは1943年11月 - 1944年2月である。日本がポツダム宣言を受諾し降伏したのが1945年8月15日であるから、その二日後に刊行されたことになる。戦後70周年を迎えた今日、内容上その続編にあたる20世紀世界文学の最高傑作と評される『1984年』(1949年刊行)も参照しつつ、改めて『動物農場』を読み返し多様な解釈の可能性を探りながら、今日的意義を見出す試みも意味がなくてはならないであろう。

ある晩、莊園農場の長老である雄ぶたのメジャー爺さんが不思議な夢を見る。爺さんは「死ぬまえに、自分がえた知恵をみんなに伝えるのがわしのつとめだ」と痛感し、ほかの動物たちを大納屋に集める。彼はこの集会で、農場での自分の知見に基づいて動物たちの不可避の将来を危惧して演説する。「…〈反乱〉あるのみ！…遅かれ早かれ正義の裁きはなされるのだ…わしら動物は、完全な団結をはかり、また完全な連帯をもって、たたかってゆくようにしましょう…」そして演説の最後にすべての動物が守るべき戒律を提示する。

私が特に関心を持ったのは、予想に反してあっけなく成就した反乱のプロセスではなく、むしろ成功後にみんなで決定したはずの動物主義がどのように適用され、濫用されていくのかのプロセスである。また同時に、なぜほかの動物たちが疑念を抱きながらもそれを受け入れ服従せざるをえなかったのか、その心理的メカニズムである。新たな理想を掲げて経営される動物農場において、ぶたたちを中心として、抑圧されていた動物たちの本性が顕在化し複雑に絡み合いながら物語が進行する。

スノーボールと同志の雄ぶたナポレオンは、爺さんの遺志を継ぎ動物主義の研究を行った。「われわれは〈動物主義〉の原理を七つの戒律に要約することに成功した…これは動物農場のすべての動物たちがこれからずっと守っていかなければならない不変の法なのである。」

ぶたは働かずほかの動物たちの指導と監督をした。「知識が抜群にある」ので、指導者の役割を果たすのは自然なことだと思われたのだ。日曜日には仕事がなく全体集会が開かれた。この集いでは一週間の仕事の計画が立案され、決議案が提出され、また議論が行われた。決議案を提出するのは常にぶたであった。ほかの動物に比べて明らかに「頭がよい」という理由で、ぶたが農場の政策のすべての問題を決めることが認められるようになったからである。ただし、彼らの決定は過半数の投票によって承認される必要があった。

この物語では様々な事件が起こる。ここで今から、「スノーボールはどこへ消えた？」かの経緯を説明しよう。彼は集いで農場の将来を見据え風車建設を提案する。しかしそれに対してナポレオンが断固反対する。スノーボールの演説は雄弁で、演説が終わるころには票決がどう出るか疑いようがなかった。ここ

で突然予想していたとはいえ、信じがたい事態が発生する。ナポレオンの甲高い「キーッ」という一声を合図に戸外で恐ろしい吠え声があがり、九匹の獰猛な犬がスノーボールに向かって飛びかかってきたのだ。子犬の時にナポレオンが母犬から引き離してこっそりと育て、手懐けていた犬である。

『動物農場』は1954年ジョン・ハラスとジョイ・バッチュラー両監督によってイギリスで長編アニメーションとして制作された。この場面ではナポレオンに命令された九匹の黒い凶暴な犬が農場の外までスノーボールを執拗に追い立てる。最後に一匹の犬がナポレオンに結末を伝える。だが観客にはその言葉が分からない。場面は隠されているが、スノーボールは犬たちに噛み殺されたように描写されている。しかし原作では追放されて以降スノーボールは噂としては登場するが、実際に登場することはない。だからこそスノーボールの消息が気にかかるのである。

スノーボール追放後すぐに、ナポレオンは定例の日曜朝の集いは不要で時間の無駄だからこれ以降開催しないと宣言する。「今後は、農場の運営に関わる諸事万端は、特別委員会できりきめ。委員長は自分がつとめる。それは非公開の会議とし、ほかのものにはその決定を事後に伝える。動物たちは今後も日曜の朝に集まって…その週に指令を受ける。だが、討論はもうおこなわない。」ところが前列にいた四匹のふたが不賛成の叫び声をあげ、立ち上がって一斉に話し始めた。しかし脅迫と妨害によって議論の機会は奪われる。この事件をきっかけにナポレオンとその取り巻きによる独裁体制が敷かれることになる。

この事件以後、突如活躍しだすのが腰巾着スクィーラーである。彼の詭弁はいたるところで発揮される。そのもっとも顕著な詭弁の一つが、ナポレオンによる風車建設開始の発表に関してほかの動物たちに内々に行った説明である。「…スノーボールが…描いた設計図は、じつはナポレオンの書類からぬすんだものだった。じっさい、風車はナポレオン自身の発案だったのだ…」ではなぜナポレオンは大反対したのかと聞かれると、急に狡賢い顔をして答える。「それこそが〈同志〉ナポレオンの巧妙なところなのだ…あのお方は風車に反対するかのようによく偽装したのである…スノーボールを放逐するための策略であった…これは権謀術策と呼ばれるものなのである。」スクィーラーは権謀術策という言葉は何度も繰り返しながら跳ね回り、しっぽを振りながら愉快そうに笑った。スクィーラーの狡猾さと軽薄さが象徴的に描かれる滑稽な場面である。

七つの戒律は悉く改竄される。そのたびにスクィーラーはあきれられるような詭弁を弄して動物たちの記憶を操作し、その書き換えを行い洗脳する。全体主義的近未来を予言する『1984年』では真理省が他者の記憶を否定し、過去を書き換える機関として描かれている。

年月が過ぎた。四季が移ろい、動物たちの短い命が過ぎ去った。やがて反乱よりも前の時代を覚えているのも輓馬クローヴァーのほか若干の動物以外いなくなった。果たしてほかの動物たちにとって動物農場は荘園農場よりも快適になったと言えるのだろうか。

冒頭で述べたとおりこの物語は1943年11月－1944年2月に執筆されたと記されている。実はこの執筆時期の記述の前にもう一言「おしまい」という言葉が付記されている。『動物農場』の原題が『動物農場－おとぎばなし－』となっていることに呼応する。この著作をオーウェルの意図に即してある時期のある一定の国家や主義に対する批判の書として読解するだけではなく、今日にも通用する普遍的な警告の書として解釈すべきであろう。高島はこの寓話で描かれている墮落した議会主義的民主制について鋭い解釈を提示している。

「あらゆる政策を、実質上はナポレオンとその一派が、全く自分たちの都合のいいように立案するくせに、それを形式的に全体会議にかけ、今度は満場一致、もしくは多数決と称する魔術によって、農場全員の総意という形にすりかえ、その『総意』なるものを、ごり押しに農場全員におっかぶせていくやり方などは、いわゆる『墮落した議会主義的民主主義』のからくりを如実に見せつけてくれる」（『動物農場』高島文夫訳、角川文庫、1972年「解説」参照）。高島の言葉を借りて言えば、「『権力』というものは、それがどのようなイデオロギーと結びついていようと、確立されて定着し、永続すると、必ずその権力を握るものの腐敗と墮落を生むのである」（同上）。

『動物農場』には、オーウェルの上記のような深い洞察が含まれている。私はあえてこの物語の結末には言及しない。長編アニメーション版ではその結末が異なっていることだけは指摘しておこう。学生諸君が各自でその結末を創造してほしい。

利用学生の声

図書館を利用して

薬学部 薬学科 6年次生 北 侑未



薬学部の図書館は私の学生生活の中で思い入れのある場所の一つです。私が主に利用しているのは専門書ですが、小説や新聞等もあり、インターネットも利用することができる落ち着いた雰囲気のある場所です。授業で習ったことを参考書を利用して復習したり、また5年次の実務実習期間中は、実習先で学んで興味を持った内容を専門書で調べながら日誌を書いたりしていました。

正直に言うと、私は本を読むのが苦手なので大学生活で図書館を頻繁に利用することになるとは思っていませんでした。しかし、多くの友人や先輩方が利用しているという話を聞き、私も図書館に行ってみたところ、落ち着いた雰囲気や居心地が良く、大変気に入りました。また、広い学習スペースと豊富な専門書があり、本を読んでも分からなかったことをインターネットで調べることができるという環境がとても魅力的であったことから、図書館を利用する頻度が多くなりました。

また、私は図書館を利用して良かったと思うことがあります。それは、普段は読まないような本であっても、何故か図書館では読んでみようという気持ちになるからです。図書館で探している本をなかなか見つけることが出来なかった時に、偶然目の前の棚にあった本が気になって読んでみると面白かったという経験をしたことがよくあります。本との出会いは自分がどのようなことに興味があるのか知ることが出来るとても貴重な経験になります。私は音楽鑑賞が趣味で、お店やテレビで偶然聴いた曲あるいは友人が歌っていた曲がお気に入りの曲の一つになるということがよくありますが、音楽も読書も「きっかけ」がとても大切だと思います。そこで、私のように本を読むことが苦手な方にお勧めしたいのは、タイトルを見て面白そうだと思った本があれば少しでも良いから読んでみるということです。必ずしも1冊を読み切る必要は無いと思います。その本を読み、一つでも良いから新しい知識や考え方を学ぶことが出来れば良いと思います。

清潔感があり、読書にも勉強にも集中することが出来る魅力的な図書館は本学の学生の中でもとても好評です。図書館で過ごした貴重な時間は私の大学生活の中でもとても良い思い出です。図書館だけでなく、書店に行った際にも目的の本以外の本にも手を伸ばし、本に触れる機会を大切にしていきたいと思っています。

平成27年度図書館委員紹介

委員長（図書館長）	松本 和彦先生
薬学部委員	村山 次哉先生、山崎眞津美先生、鈴木 宏一先生
未来創造学部委員	山崎 博久先生、安田 優先生、川端 健司先生

寄贈図書

本学の教職員等から、下記のとおり図書の寄贈がありました。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

書名	寄贈者
額田豊・晋の生涯—東邦大学のルーツをたどる ほか 計149冊	三浦 雅一（薬学部長）
アジア共同体の創成プロセス	李 鋼哲（未来創造学部教授）
ムージル著作集 第9巻 ほか 計2冊	三国 千秋（孔子学院長）

今を生き抜くための本の力

未来創造学部 国際マネジメント学科 1年次生 田中 真澄



普段の学校生活や部活動において、自分の考えや能力では解決出来ない問題が多く起こります。自分が持っている知識では解決出来ず、あれこれ考え、結局答えが出ないまま日々が過ぎていくことが誰にでもあると思います。そんな時、私は本を読みます。本によって今まで自分にはなかった、思想や考えを知り、新たな答えを導き出し、それを実行に移すことによって一歩前に進むことが出来ることがあります。だから私は、本を読みます。

私のスポーツ人生において挫折はつきものでした。反骨精神が無くなるほど心が砕かれたことや、何度も全身麻酔の手術、自分の力では乗り切れない問題が幾度も起こりました。その問題と真正面から向き合うことが辛く、現実から逃げてしまいたい時、私は本の世界に逃げ込みます。今、自分が解決しなければいけない問題とあえて無関係な本を読み、辛さや痛みを忘れるための逃避行に本を使う場合もあります。読書をしているときは、感情的にはなりません。冷静に論理的に本の内容を解釈しようとします。一見難しそうなことでも冷静かつ論理的に物事を見れば、答えは単純でシンプルなものであり、あれだけ頭を悩ませ、何かに縋らずにはいられなかった自分が馬鹿らしく思えることも多くありました。本を読むことは自分にとって心の引き出しを増やすことと一緒です。心の引き出しが多くある人は物事をあらゆる方面から考えることが出来ます。何かを見聞きしたとき、単純な捉え方だけではなく、様々な角度から最善の答えを導き出すことが出来ます。

本には人生を変える力があると私は思います。本には、著者の思想、世界があり、一つのストーリーがあります。そこで生きる人の感情や成長を自分も感じ、成長できる気がします。そこに自分の人生を変えていくヒントがいくつもあります。「チャレンジして失敗を恐れるよりも、何もしないことを恐れる」、これは『心に響く名経営者の言葉』という本の一節で、この言葉が私の人生を変えました。試合に勝たなければいけないという重圧に押しつぶされそうになっていた私を救ってくれた言葉です。この本のおかげで、私の人生はいい方向に変わりました。この言葉は今も私の軸として生き続けています。

本館（太陽が丘キャンパス図書館）レイアウト変更のお知らせ

これまで4階にありました閲覧机を1階に移動し、4階に書架を増設しました。雑誌架の位置も変更しました。



1階



4階



北陸大学図書館報 NO.39 平成27年10月20日発行

編集・発行：北陸大学図書館 〒920-1180 金沢市太陽が丘1-1 TEL. 076-229-3021 FAX 076-229-4850
Eメール：tlib@hokuriku-u.ac.jp 北陸大学図書館ホームページ：http://www.hokuriku-u.ac.jp/about/campus/library.html

※北陸大学図書館報は、ホームページでもご覧いただけます。